

そらごう[®]

FREE



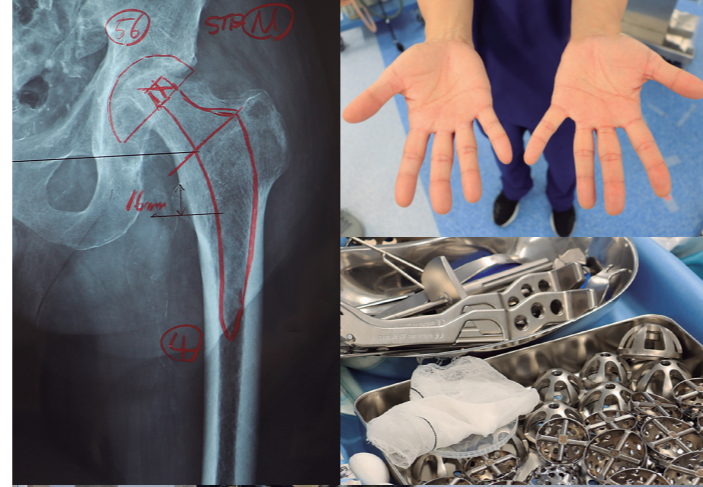
2022年7月号 発行：社会医療法人社幸会 行田総合病院



整形外科 2022

新体制で地域のために！

新・整形外科



▲経皮的椎体形成術を行う平井医師、西島医師（左）。背骨を固めて痛みを止めるために正確な角度や深度を丁寧に捉える。

▲この日の人工股関節置換術はハイブリッド手術室で行われた。そして金属の医材は硬く、執刀医の手のひらは柔らかかった。

▲人工股関節置換術を行う勝又医師、岩本医師（左）、松丸医師（右）。繊細な手技と正確な流れが「再び歩ける喜び」を運ぶ。

ただひたすら。

関節リウマチ・関節リウマチに関連する関節手術を行うほか、抗リウマチ薬や生物製剤を用いたリウマチ治療を当院クリニックにて行っています。

自治医科大学さいたま医療センターへご紹介しています。

良性腫瘍や悪性腫瘍でも血管神経障害を起こさない例は当院でも手術を行い、化学療法を用いる悪性骨腫瘍である骨肉腫などは、現在は県立がんセンター、埼玉医科大学国際医療センター、自治医科大学さいたま医療センターへご紹介しています。

骨軟部腫瘍外科：骨軟部腫瘍の発生頻度は癌（上皮性悪性腫瘍）発生に比べて希で少ないのですが、腫瘍類似疾患を含めて、近隣医療機関や他科からの紹介により、診察、評価、治療を行っています。

人工関節置換術の手術に当たっては、周術期の下肢深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症の予防を行い、場合により自己血を前もって貯血し使用して、合併症の抑制に注力しています。また、手術方法も改良を重ね、現在は主に小切開、低侵襲の方式を採用しています。

まず、最初は保存治療を行いますが、疼痛がADL（日常生活動作）を低下させるような場合は人工関節置換術をお勧めします。

関節外科：特に股関節や膝関節は加齢とともに変形し痛みを伴うことがあり

運動器外傷外科：高齢社会においての外傷は骨粗鬆症を持つ高齢者が平らな面であらうして転倒し起こす脆弱（せいじやく）性骨折があります。これには橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、鎖骨骨折、肋骨骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折、骨盤骨折、大腿骨近位部骨折、大腿骨遠位端骨折、脛骨近位端骨折、足関節骨折などがあります。

これらに対しては骨折のずれ（転位といいます）が大きければ手術による整復固定術を勧め、早期に歩行機能、運動機能の回復を目指します。転位が少なければ保存治療（手術をしないで行う治療）を提案します。どちらも、早期からのリハビリが非常に重要となります。

◆2022年の整形外科

「コロナ禍が収束しつつあります。整形外科は、この春一気に常勤専門医が増え、4月に2名、6月に1名が加わり、合計5名となりました。常勤医5人体制になったことに伴い、当科が現在行っていること、今後の展望をお話ししたいと思います。」

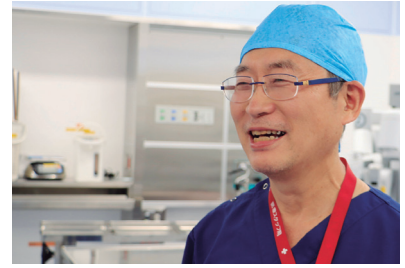
5人の医師が地域のために。



整形外科部長・人工関節センター長

勝又 信一

Shinichi Katsumata
 日本整形外科学会専門医
 日本リウマチ学会専門医



副院長

小島 達自

Tatsuyoshi Kojima
 日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会スポーツ認定医
 日本東洋医学会漢方指導医・専門医
 身体障害者福祉法(肢体不自由) 指定医師



整形外科

松丸 大輝

Daiki Matsumaru
 日本整形外科学会専門医



整形外科

平井 敬悟

Keigo Hirai
 日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会脊椎脊髄病認定医



整形外科

岩本 勇樹

Yuki Iwamoto
 日本整形外科学会専門医

また、リウマチ膠原病内科によるリウマチ治療も当院クリニックにて行っています。

骨粗鬆症：脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折、上腕骨近位端骨折を起こした患者さんの退院後2度目以降の骨折を予防するために、骨粗鬆症外来を設け、評価し、治療しています。

高齢社会においては脆弱性骨折をいかに減らすかが高齢者のクオリティオブライフを維持する鍵でもありますので、骨折予防は重要です。

脊椎・脊髄病外科：今年4月より平井医師が常勤に加わり、手術を含めた治療が可能となりました。

胸椎・腰椎圧迫骨折に対しては早期のBSP(バルーン脊柱後彎矯正術)を行うことにより、低侵襲で早期から痛みを軽減し、歩行回復が可能となります。更に脊椎を固定するネジや金の棒(ロッド)を組み合わせて背骨を固定する方法は除圧のみでは不安定が予想される場合に用いる強力な道具です。

脊椎外科は外傷や変性疾患、腫瘍を含めた脊椎・脊髄の病変に対する有効な手段です。手足を動かす重要な幹線道路に相当する中枢神経である脊髄を守るために行う手術は、常に手術前より悪化させないという配慮が必要な繊細な整形外科治療です。

◆その他の取り組み

※**JOANR**：整形外科医は日本整形外科学会に属し、専門医試験に合格し、更に自分の得意分野の腕を磨いていきます。日本整形外科学会は全国的に手術を登録する手術症例レジストリー(登録)制度を始め、より良い日本の整形外科治療のために手術症例1例1例を登録。当院もその活動に協力しています。

※**CSP-A-TOP**：骨粗鬆症学会はパブリックヘルスリサーチセンターと共同して骨粗鬆症至適療法を日本人のデータを取りながら研究を続けております。このような活動に当院も参加しており、骨粗鬆症の治療プロトコル(薬物や期間を設定)を適応し、患者さんの同意を得て研究しております。最新のATOP05の全国での1000例の重症骨粗鬆症患者さんデータからは、「アリパラチド先行後にビスフォスフォネート剤を使う場合」vs「ビスフォスフォネート剤単独使用」において椎体骨折予防に関して前者の優位性が証明されました。

◆地域の未来へ向けて

当科は常勤医師5人体制でこれまでも増して救急・手術・紹介・入院・外来に力を入れて参ります。
 心配な痛み等があれば、まずは整形外科外来を受診してください。

整形外科 外来表	月		火		水	木		金	土		
午前	中村	平井	勝又	松丸	上田	小島	岩本	小島	岡本	小島・勝又・平井	上田
午後	中村		勝又	岩本	上田		勝又	松丸	岡本		